

3Gメニューとユースメニュー

3Gメニューを設定することにしました。そもそも「G」とは、グリーンの頭文字で、若葉マークのつもりだったのです。難易度でGとは、初心者向きのコース設定だったのです。

それが年を追ってぼくも会員諸賢も高齢化、Gより楽に登れるGGコースの設定が必要となり、7月まではGG・G・Wのコース設定だったのが、ぼくの脚、会員諸賢の脚のもつれ具合を眺めていて、8月より3Gメニュー設定となった次第です。

昨年10月、Hさん、Sさんのお二人と、谷川連峰を谷川岳から蓬峠、清水峠、朝日岳、白毛門山へと2泊3日で縦走してきました。お二人とも三百名山はとうの昔に終了されているベテランですが、ご年齢は七十歳台後半、若い頃のようにスタコラ歩けなくなっているらしい。朝日岳は三百名山だから登ってはいるが、谷川岳から続く主稜線を白毛門まで朱線を引いてみたいのどと、コースタイムの2倍の時間なら歩けますということで、谷川岳肩ノ小屋に1泊、清水峠の避難小屋にもう1泊の2泊3日、コースタイムの2倍の時間を要したけれど、楽しく縦走することができました。

「バテない登り方教えます」の岩崎としては、「歩幅を小さく、ゆっくり歩けば」バテないという岩崎理論の実証にほかなりません。

新しい年を迎えると、1年分加齢して1年分の体力がマイナスされてしまいます。登山はサバイバルゲームでもありますから、安心登山にはスピードも要求されます。しかし、山によってはコースタイムの2倍かければ登れる山は、捜せばいくらでもあります。ポイントはリーダーでしょう。条件の整った山を見つけて、良きリーダーに恵まれれば、スタコラ歩けなくなった人にも、まだまだ山登りを楽しむことは出来るはずですよ。

4月29日に登った伊豆大島・三原山も、この山を日帰りでやればGGメニューになるのですが、下って温泉ホテルに泊まるという計画にすると、あわてる必要は全くなくなり、安心安全にどっぷり大自然に浸れたのでした。3Gメニューそのものでした。

他方、若い人たちも放っておけません。自分自身を見つけられなくて、どうどう巡りしている若者がマスコミを通して目に入ってきます。テレビゲームのボクシングで盛り上がっていても、自分の発見などできっこないのです。

不破哲三さんの『私の南アルプス』からの引用ですが、「山は自分の発見」です。若い人を山に連れ出そうと考えて「山塾ユース」を設定しました。大きな声では言えませんが、Gパンに運動靴でもいいから山に登ってみないかと、チャンスマークした次第なのです。アピールが不十分で、参加者は少ないですが、ブレイクするのは時間の問題でしょう、なあんちゃって。こちらはバンバンすっつとんで歩きます。